

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 若松 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

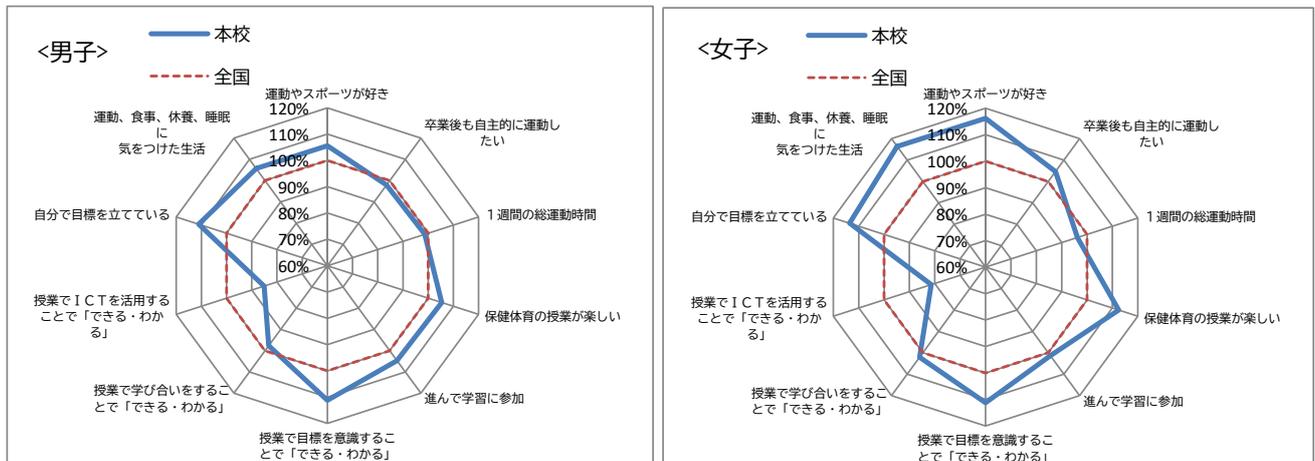
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	28.95	26.09	45.12	51.64	409.25	78.82	8.00	197.51	20.74	42.2
本市	29.68	26.06	46.16	52.78	410.16	81.09	7.88	199.92	20.42	43.36
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○				○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.15	21.70	46.99	45.74	309.66	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58
本市	23.73	21.88	47.43	46.70	309.06	52.42	8.84	170.22	12.10	49.03
本校全国平均以上の種目		○						○		

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査レーダーチャート



質問調査の結果分析

1週間の総運動時間やICTの活用については男女ともに全国平均を下回っているが、ほとんどの項目で全国平均を上回っている。単元の目標やその1時間ごとのめあてを明確にして授業を行ったことで、授業で生徒がめあてを意識し、目標をもって取り組むことにより、「できる・わかる」につながったと考えられる。実生活で取り組むことができる運動を取り入れるなど授業を工夫し、日常における運動習慣の定着を図りたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

効果的にICTを活用し、自他の動きを確認したり、互いに助言をしたりしながら、より良い動きや体の動かし方を考える時間を単元の中で設定する。また、調べたことや考えたことをまとめ、意見交換やプレゼンテーションをするなど、思考を整理する場面でICTを活用し、生徒の「できる・わかる」をより増やしていく。また、実生活の運動につながるプログラムを体づくり運動の単元で計画する。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

生徒が継続的に運動したいと思えるよう、楽しい・更に学びたいと思える教材の工夫をしながら、生徒の実態に応じた授業を行う。場所を選ばず気軽に行えるダンスの取組を実施し、体育大会等で発表の場を設ける、ダンス派遣事業を利用するなどして、楽しい、体を動かすことが面白いと感じる生徒を増やす。